アクセサリデコーダー（2線式ポイント用）　COT_OPD ver1.01 簡易説明書

※はじめに（必ずお読みください。製品をご使用された場合には下記の条件、注意事項をご承諾いただいたものと見なします。）

○注意事項

① 製品に関して

・製品の使用によって発生する事象に関して、当方は一切の責任を負いません。デコーダーの取り付けやレイアウトへの組み込み、ご使用中には短絡や過負荷に十分ご注意いただき、安全にお楽しみください。

・DCC 専用機器ですので、本来の目的以外の使用をしないでください。

・NMRA の規格に則って製作しておりますが、完全に準じておりません。規格外の仕様もございますので、あらかじめご了承ください。

・ノイズや他の機器からの影響により、誤作動する可能性がございます。また DCC システムとの相性もございますので、あらかじめご了承ください。

② 取り付けに関して

・配線の間違いには十分ご注意下さい。とくにレールへの配線とポイントへの配線を間違えますと、デコーダーが焼き切れたり、ポイントのコイルが焼き切れたりします。その際に火傷や怪我をする可能性がございます。また、DCC システムにも影響を及ぼす可能性があります。

・配線は無理に引っ張ったり、繰り返して曲げたりないでください。断線する可能性がございます。やむを得ず配線を交換する場合には説明書の配線図をご参照ください。

③ ご使用中の注意事項

・規定の電圧がございますので、適合しない DCC システムには使用しないでください。

・基板の裏面（ハンダ面）は配線がむき出しになっています。短絡の可能性がありますので、クリップやレール、金属部品が当たらない様にして下さい。また、基板や部品に過度なストレスや衝撃、熱がこもらない場所でご使用ください。

・製品の異常な発熱や誤作動が相次ぐ場合にはご使用をお控え下さい。

・アドレス変更の際には一定の時間（数秒）がかかります。手順を一つずつ確認しながら操作して下さい。

○デコーダーの仕様

・対象機器

対象ポイント	最大同時接続個数（1 回路当たり）
EP718-15(N６番)	4
EP481-15(N４番)	4
WX310(N 両渡り)	1（連続動作は控えて下さい）
EP550(HO４番)	2
EP867(HO６番)	2

※レール間電圧が低い場合にはポイントが切り替わらない場合があります。特に複数接続や両渡りの場合にはご注意下さい。

※１回路に異なるポイントを同時に接続しないで下さい。誤作動やポイントの故障に繋がります。同時接続可能なポイントは同一種類のみです。

・非推奨のポイント機器について

当方では確認出来ていないポイントでも動作可能な物があると思います。部品の仕様上、最大電流がピーク時 2.0A(コイル用の制御システムですので、出力は短時間です)を超えない様にお願いします。また、最大電流付近で使用する場合には、連続動作は控えて下さい。IC が発熱し、故障に繋がります。

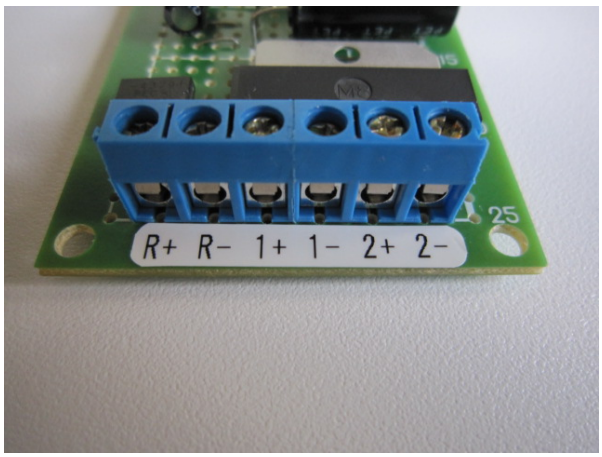
・供給電圧（DCC 電圧）：12～18V（推奨 15V）

※電圧が低い場合にはポイントが正常に切り替わらない場合があります。また使用部品の定格は最大 18V ですので、これ以上の電圧を印可すると故障します。

・アドレスの設定範囲：11bit「1～2044」

アクセサリデコーダーのアドレス指定範囲について、詳しくはお持ちのコマンドステーション等の説明書をご覧下さい。コマンドステーションによっては最大設定範囲が異なります。

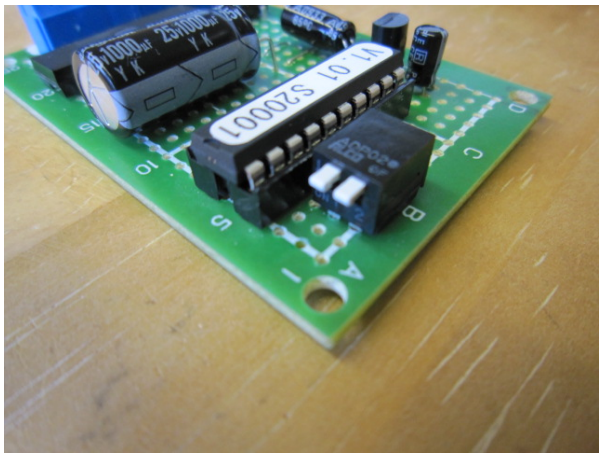
○接続方法



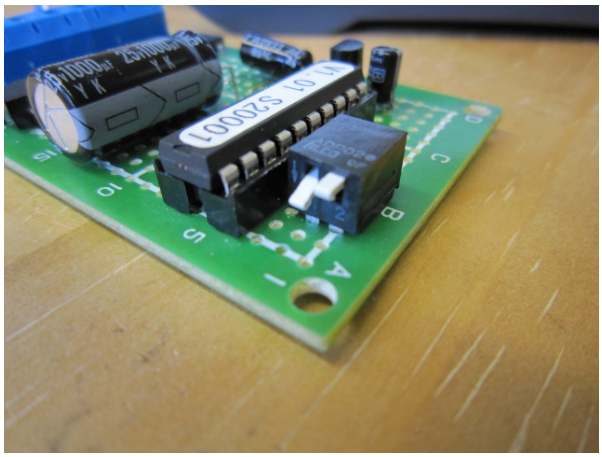
名称	接続先
R+	レールへ
R-	レールへ
1+	回路 1（プラス側）
1-	回路 1（マイナス側）
2+	回路 2（プラス側）
2-	回路 2（マイナス側）

※ポイントの極性を変えたい場合には、プラスとマイナスを逆に接続して下さい。
例：定位と反位を入れ替えて使用する場合など。
※配線は一定上の太さ（AWG28 以上）が最適です。またネジは確実に閉め込んでください。

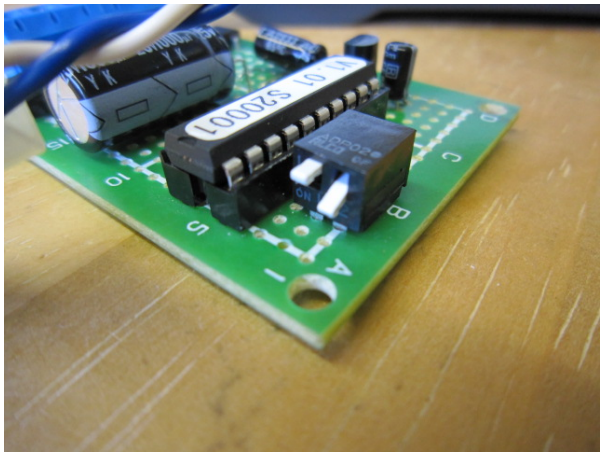
○アドレス設定方法
①線路への電源を OFF にする（デコーダーへの電源供給を遮断する）
②変更したい方の DIP スイッチを押し下げる。
④ 線路電源を入れる。
⑤ アクセサリアドレスを呼び出す。
⑥ 何回かポイント切替をする（常位、反位を繰り返す）。
⑦ ポイントが切り替わる様になったら、設定完了。
⑧ 線路電源を OFF にする。
⑨ DIP スイッチを戻して、線路電源を入れる。



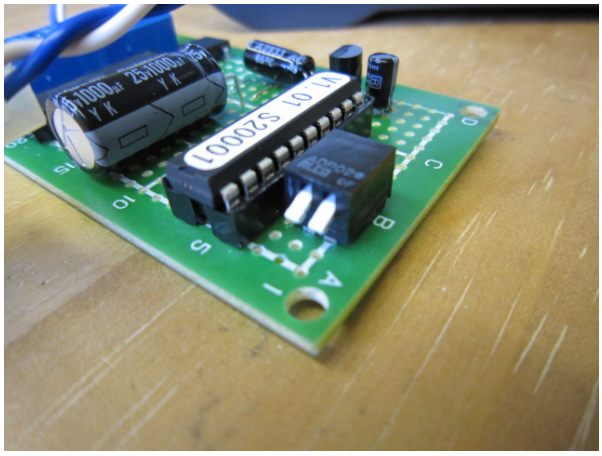
通常時



回路①のアドレス変更時



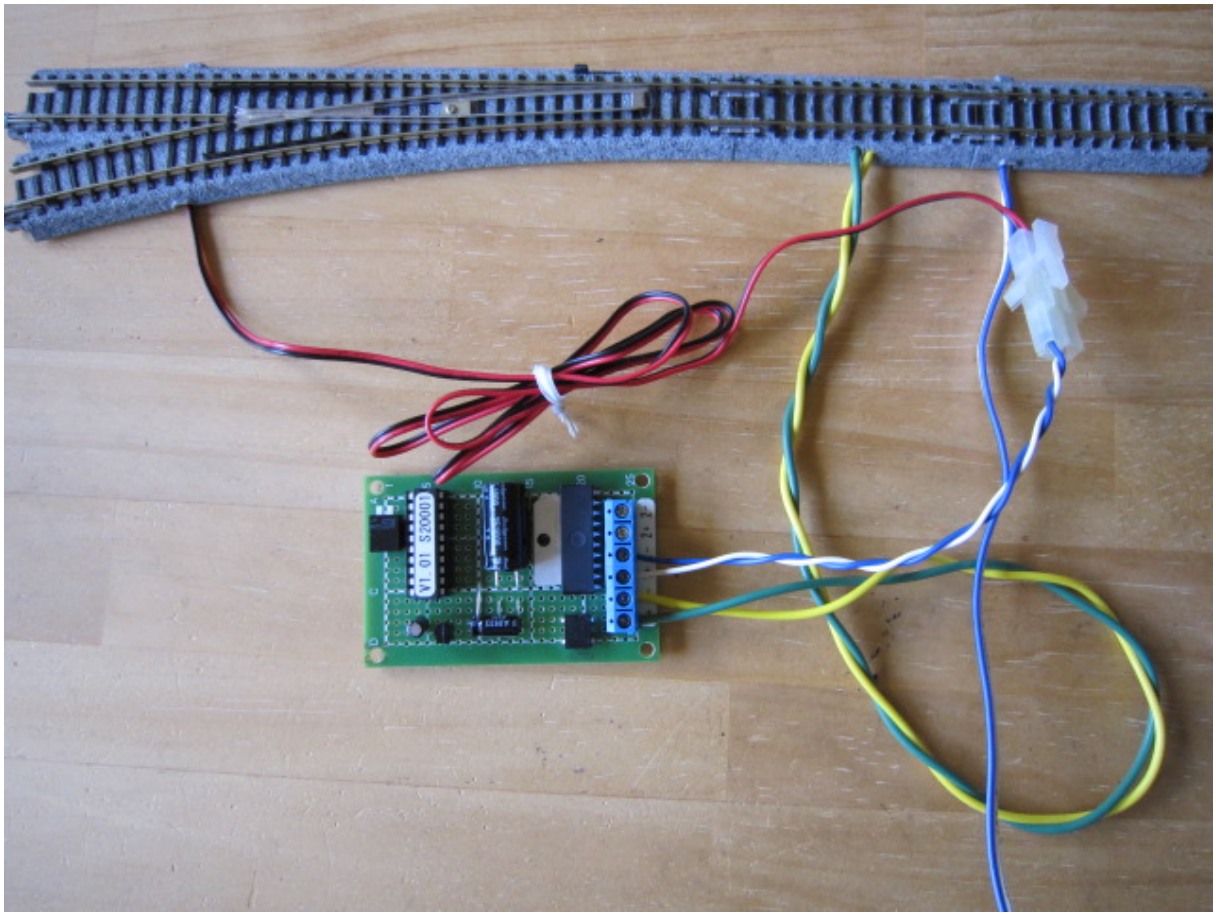
回路②のアドレス変更時



出荷状態に戻す場合

※両方の DIP スイッチを押し下げた状態で線路電源の入切を行なうと、デコーダーのアドレスがリセットされ、出荷状態に戻ります。
出荷状態では
回路①：アドレス「1」
回路②：アドレス「2」
となっています。

○接続例



レールからデコーダーまでの配線とポイントまでの配線はあまり長くしないでください（1m 以上は不可）。また接続方向を間違えない様にしてください。
※基板は部品がむき出しの状態で、ハンダ面も通電し易くなっています。実験や取り付けの際には通電物が無いか、よく確認した上で行なって下さい。

○その他
ご質問やご意見はメール(hirataseisaku@gmail.com)にて受け付けております。本製品は特性上保証をお付けする事ができません。また修理も行なっておりませんので、ご了承下さい。